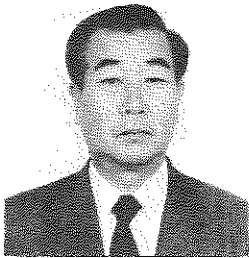


栃木県中学校長会報

中学校教育の課題と方向



栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校長
島 方 幸 男

中学校教育に対する指摘と課題は今日ほど多いことはない。本年度は5月の総会において、(1)会員の研修活動の推進、(2)教職員の人材確保対策、(3)義務教育尊重の気風の高揚、(4)生徒の教育、福祉条件の充実促進、が決定された。9月の県中学校長研究大会では、校長のリーダーシップによる学校教育の活性化を旨とし、専門職として、主体的な課題解決に総力を結集することは、本県中学校長会として、誠に意義深いものがある。また、昨年度に引き続き、生徒指導特別委員会の設置をはかり、女生徒の非行問題、いじめの問題等を取りあげ、校長としての対応をはかることは時宜を得たものであり、各方面から期待もされている。

このところ、教育改革を求める声は強い。高校入試の改善、臨時教育審議会の発足など国家的大問題となっている。これは、教育の現状に対する不満や不信が多いことの表れに他ならない。学力の低下、公共心の欠如、登校拒否生徒の増加、非行・暴力は勿論女子生徒の性非行やいじめの問題等どれを考えても深刻な問題である。

さらに、来るべき21世紀に生きる今の若者を考えるとき、O AやF A時代に表わされる第三の産業革命の波がおしよせてくる未来社会に、どう対応すべきか、最大の教育問題であろう。今日の日本の発展は、技術水準の高さがそれを支え、その背後に日本の教育の成功があったことも事実であろう。高齢化社会、情報化社会、国際化社会を迎える日本にとって、これからの学校はどうすべ

きか、今こそ国家百年の大計を樹てる時であろうが、最近の若者は無表情で感動がないとか、知的好奇心に欠けるとの指摘がある。日本にとって、やる気を失い、活力を失った青年の増加こそ、最大の問題ではなからうか。

ある大学教授は、何か調べてみたり、勉強することが楽しくてしょうがないと言った青年に出会ったことがほとんどないと言っている。勉強はつらいこと、つまらないが受験があるので、しかたがないのでやる。そんな構えがきわめて強くなったと言う。中学、高校といえば人間の精神的発達の上できわめて重要な時期である。誠に不幸なことであるが、目先の受験勉強にとらわれて、大きな精神を失っているのが現在の青年ではないだろうか。自己教育力とか、活力のある人間育成に真剣に取り組むことが、最大の課題とならう。

生徒の非行・暴力や登校拒否さらには、無業者対策など、学校教育それ自体で解決すべき問題も多いが、家庭教育に因をなすものが非常に多い。過保護にはじまり、放任、無関心家庭、けんかばかりしている家庭、アルコールばかり飲んで暴れる家庭、夜間働き子供だけになってしまう無保護家庭、最近ではアメリカ型家庭といわれる、子供の世話を放り出し、自分の楽しみだけを重視する娯楽型家庭が目立っており、今後ますます増加するように思われる。それに加えて、プライバシーが優先して、連帯や地域の教育力は低下して、子供に害を与えるような家庭の増加に拍車をかけている。

したがって、生徒の非行問題、非社会的問題の解決には、父母のあり方への改善がなされないかぎり根本的な解決はできないことが多い。少なくとも児童生徒をあずかる学校としては、親に向かって、アドバイス、指導、要望を積極的に進める以外に道はない。高石初中局長の主唱する、「学校

と家庭のブリッジ論」はこのような意味がある。実際問題として、親にどのようにアドバイスをしていくかは大変むずかしい。それぞれの家庭のタイプを見抜いて対応しないかぎり、的確な効果はあがらないであろう。家庭と学校の連携を深め、父母に注文を付けていくことは今後非常に大切なことである。困難な問題でもあるが、我々が最も努力しなければならないことのように思う。『一人の賢母は百人の教師に匹敵する』（ヘルベルト）や『一人の父親は百人の校長にまさる』（ハーバード）の諺をよくかみしめたい。

君子は本を務む 本立ちて道生ず



栃木県中学校長会副会長
小山市立小山第二中学校長
玉野 安一

今日も登校途上で信号待ちをしている私に、車の窓からボランティア活動の婦人の方が交通安全をアピールするチラシを渡してくれた。『ご苦労さまです。とあいさつをしてこれをいただいた。『飲んだら乗るな、誰でもよく承知していることである。しかし知っていてもどこかでこれによる事故が起きているのが現実である。まさに『わかってもやめられない、のである。』

交通取り締まりがきびしいのは事故が多発しているからである。学校には『ゆとり、がないから『ゆとり、ということが考えられている。親切な心や思いやりの心が欠如しているから『親切運動、が目ざされている。人々の心がすさんでいるから豊かな人間性を育てる教育が強く叫ばれる昨今である。

情報化時代においては、われわれは多くの知識をもっている。たしかにみんな物知りである。知識を多くもつということはすばらしいことである。しかしそれ以上に正しい判断をして、それを実行できる確かな心をもつことが人間としてより大切

である。わかっているけどやめられないという言葉があるが、わかっているという知識（頭）が優先し、やめられないという情操（心）が育っていないのが現代人の弱い一面である。知育偏重ということが言われてから久しいのに残念である。知識だけでは物事は解決しないのである。

今、中学校では多くの、しかも深刻な問題をかかえている。わたしたち教師は真剣にこれらの問題に取り組んでいる。そして多くの時間と莫大なエネルギーを消費しているのが現状である。

『君子は本を務む、本立ちて道生ず』と論語にあるが、まさに今こそ本を見極め本を務めるときである。

学校は人を磨き人を創るところである。今望まれる学校における人創りの本は何かを真剣に考え、これを明確に捉えて、知恵を出して学校経営に具現化することが急務である。そのためにはまず学校の管理者、経営者である校長としての本を務め励むことが大切である。校長としての本は『長たるの心、であり、この『長たるの心、の研修こそ日頃心掛けねばならないことである。

舞台上で多くの観衆から拍手喝采をうける一人の名優のかけには、それを支えているたくさんの人たちがいる。学校というピラミッドの頂点にある校長も支えてくれる多数の職員がいることを常に念頭から忘れてはならない。

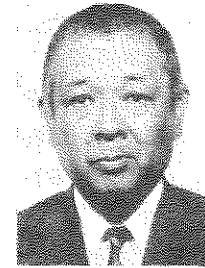
学校での教育活動を進める上で最も大切なものは人間関係の確立ということである。これは実に難しいことである。これは理論や権威だけでなく感情的分野も含まれるからである。実は人間関係の鍵はむしろ情緒が握っているように思われてならない。そのためにも校長としての『長たるの心、をたえず磨いていかなければならない。

学校をオーケストラとみれば、校長はまさに指揮者である。指揮者は音痴であってはならない。指揮者は個性の違う一人ひとりの職員の発する音に耳を傾けながら、また音あわせを絶えず考えながら、すばらしい感動のハーモニーを生むようにタクトを振りたいものである。

孤掌では拍子は打てないし音も発しない。校長、

職員、生徒、父兄みんなで楽しく、しかも美しいハーモニーの生ずるような学校経営のコンダクターになりたいものである。学校はみんなで創るものである。学校でも家庭でも、お互いにそれぞれの本を務めることに励めば必ず道が生じる。そうすれば正常な静かな学園に戻ることは勿論、教育的に活力のある学校になるものである。

随 想



栃木県中学校長会副会長
氏家町立氏家中学校長
大澤 龍雄

最近読んだ司馬遼太郎著「ある運命について」という随筆集の中に『旅順と日本の近代の愚かさを、なる一文があります。日露戦争の第1回旅順総攻撃の時、死体を築のみの惨烈な戦闘の中で岩かげに、やっととりついていた一戸兵衛少将の指揮する小部隊がおったそうです。少将は戦術眼からみて、自分のこの小部隊を増強してくれば何とかなると思っていたのに、後方の軍司令部から退却命令がきたそうです。このことについて、次のように述べられています。

『一戸兵衛は、のちに「前線の事情にそぐわない命令を軍司令部がどんどん出してくるというのが、自分にはよくわからなかった。しかし、のちに軍司令部にゆくにおよんで事情がわかった。」と語っているが、その事情というのは、まず軍司令部は絶対安全圏の後方にさがりすぎて、彼我の状況にくらかったことであった。次いで軍司令部軍規がみだれていて、各参謀が十分に意見をのべつくすというふんいきから遠かったことであり、さらには、前線の状況を参謀みずからが見にゆくという例が、この軍司令部にかぎってなかったことである。これらのことは攻略戦の最後の段階で児玉源太郎が指摘している。

要塞攻撃は、弱点を見出し、そこに攻撃力を集

中するというやり方でなければならない。岩を割るときに条理を見出し、そこにのみを入れてゆくということと同じである。が、乃木軍司令部はこれのかんじんの弱点さがしについておよそ疎漏であった。第一線からの情報を総合すればほぼ見当がつきそうなものだが、参謀たちが各前線に身を挺して行くことが絶無だったため、弱点をさがす感覚が鈍感なままだったのであろう。……………」

長々と引用させていただきましたが、浅学非才ながら学校という集団の経営を委任されている者として考えさせられるものが多々ありました。特に、軍司令部が絶対安全圏の後方にさがりすぎていて彼我の状況にくらい、軍司令部軍規が乱れていて各参謀が十分に意見を述べつくすふんいきがない、前線の状況を参謀みずから見に行くことがこの軍司令部にかぎってない、（参謀たちが各前線に身を挺して行くことが絶無）弱点を見出してそこに攻撃力を集中するというやり方ができなかった。海軍の情報を黙殺してしまった等々は集団の経営という立場からも適切な示唆が与えられているように思います。

集団が大きくなればなるほど、組織化が進めば進むほどその複雑さと相まって、現場（あしもと）直視と実情把握がおろそかになる傾向があるように思います。

学校教育、特に中学校教育に対する厳しい世論の中、臨教審法案が国会を通過し、教育改革が着々と具体化されようとしている今日、現場をあずかる責任者の集団である県中学校長会の使命と責任は、きわめて重大なものがあるかと存じます。教育正常県としての実績と体質が質量ともに、県中学校長会の強大な活力によって一層推進されることを願ってやみません。

司馬遼太郎が「乃木軍がやった方法で効果的だったのは要塞攻撃の正攻法のひとつである坑道掘さくによる敵砲台の爆破ぐらいのもので、あとはことごとく失敗といってよく、無慮六万人という大犠牲をはらったのみであった。」とくくっていますが、現場直視、正確な情報の積極的な入手、処

要塞攻撃は、弱点を見出し、そこに攻撃力を集

理、集団の指揮力など改めて示唆を与られます。
 「副会長としての抱負」ということで、たいへんな課題をいただきましたが、会長を補佐する副会長のひとりとしての立場からまとめることができず汗顔の至りです。学校という現場をあくまで一管理者として自責を込めて書かせていただきました。

専門部の活動計画

☒ 調査部

部長 柳田 明 (宇.宮の原中)
 副部長 和田 實 (河.古里中)
 " 床井 義久 (宇.晃陽中)

A 主な事業計画

- 1 全日中調査部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施
- 2 県中学校長会ならびに各専門部会活動に必要な調査と資料提供
- 3 他県中学校長会、教育団体との連携と資料の交換
- 4 調査結果や収集資料の配布

B 中学校教育に関する調査

去る6月、各校悉皆による調査の積み上げと県教委を始め関係機関からの資料収集の両面作業で、広範多項目にわたる調査票の記入を完了し、全日中に送付する。

近いうちに、全日中特報に載るわけです。

この調査に当って、特に県教委義務教育、高校教育、保健体育各課の関係の先生方に、絶大な御協力を賜ったこと、また、全校長の御協力、特に各地区調査専門部員のお骨折りに対し、厚く感謝申し上げます。

なお、先年度までと同様に、この調査の初回(昭.48)ならびに前年度と本年度との比較を行い、参考に供したいと存じます。

比較項目	昭48.4.1	昭58.5.1	昭59.5.1
給料			
初任給(大学卒)	51,900円	119,800円	122,300円
勤続10年	78,400	193,400	197,400
勤続20年	111,800	279,100	284,800
勤続36年(校長)	146,400	370,800	382,900
旅費(1人当 年間)	24,100円	66,300円	66,300円
校長退職年金(勤奨)	58才	60才	60才
生徒数	78,836人	85,965人	88,908人
教員数(校長、教頭、教諭、養護教諭等)	3,588人	4,054人	4,169人

☒ 研修部

部長 前原 二三男 (宇.若松原中)
 副部長 花塚 忠夫 (那.川西中)
 " 新井 角治 (佐.赤見中)

1 第6回栃木県中学校長会研究大会開催

- (1) 日時 昭和59年9月6日(木)
9:30~15:30
- (2) 場所 宇都宮市立旭中学校
- (3) テーマ 「人間性豊かな生徒の育成をめざす中学校教育の活性化」
- (4) 分科会 (3分科会を設けるので、各地区とも平均的に参加されたい)

(ア) 提案者

- 那須 田中文夫校長 (高林中)
- 安佐 落合武司 " (吾妻中)
- 芳賀 斎藤祐康 " (真岡東中)

(イ) 指導者

県教委義務教育課指導主事御3名

(5) 講演

講師 国立教育研究所長 木田宏先生

2 次年度研修テーマ(案)の設定

昭和60年1月~2月

3 今年度研究集録(第7集)の刊行

昭和60年3月

☒ 職員対策部

部長 高島 守親 (宇.陽東中)
 副部長 安生 幸比古 (小.豊田中)
 " 近藤 恵仁 (那.黒田原中)

第1回専門部会(昭59.6.14)において、本年度職員対策部として取りあげるべき事項について協議をした。その結果、本部会としては、次の事項について研修をすることになった。

1 現職教育の充実

新採用後5年目研修にいたるまでの教師に対する研修について、校長としてどのようにとり組むべきであるか。その中で、とくに職場における人間関係、協力体制、モラルの高揚などについて、充実を図る必要があるのではなかろうか。

次には、主任クラスの教師については、学校経営全般について深い関心をもつとともに、さらに高い識見をもち、使命観を確立させるには校長としてどのように指導助言をしていったらよいか、ということが話し合われた。

2 教育関係法令の研究

教育関係法令の研究、とくに定年制の問題、退職手当、年金関係、退職後の医療制度の問題等、我々現場にあっては、日常の業務に追われて、研究不足になり勝ちである。このような実情をふまえ、これらの問題について、研究を深めていくことが必要ではないかということが話し合われた。

以上の観点から下記の活動計画を立てた。

1 研修テーマ

- (1) 現職教育の充実
- (2) 教育関係法令の研究(定年制、退職手当、年金関係)

2 期日及び場所

昭和59年11月下旬 旭中学校

3 研修講師

県教委 管理主事

☒ 進路対策部

部長 稲葉 乙彦 (小.三中)
 副部長 関 平 (河.明治中)
 " 青柳 勇造 (那南.七合中)

進路対策部会では、第1回の部会を7月28日に部員全員の出席を得て実施した。部会の研究課題は「県立高校入試に関する諸問題と中学校の進路指導」で、特に文部省の「高校入試方法改善検討会議」の報告書を中心に研究討議した。

ところで、文部省の「高校入試方法改善検討会議」では、去る6月22日にその報告をしたが、それは報道機関にも大きく取り上げられた。また、文部省では、この報告を受けて、去る7月20日、全国の都道府県教育委員会に対し「公立高等学校の入学選抜について」という通知を発し、公立高校の入試方法等の改善を検討するよう指示している。

これらの報告や文部省の通知では、次の事項が指摘されており、これを受けて各都道府県教育委員会では今後その検討に入るものと思われる。

- 1 学力検査の実施方法について
- 2 調査書の取り扱いについて
- 3 受検機会の複数化について
- 4 推薦入学の拡大について
- 5 面接の利用について
- 6 通学区域について
- 7 その他

そこで、進路対策部としても、この問題を十分に検討し、全中学校長の意向を体して、高校入試の改善に反映できるようにしたいと考えている。

については、各地区中学校長会におかれても、進路対策部員を中心に、上記の1~7の問題について研究討議を重ね、次回の進路対策部会(12月中旬に予定)には、多くの改善意見が寄せられるよう願っている。

☒ 修学旅行部

部長 滝田 潔 (宇・清原中)
副部長 室田 広二 (足・西中)
" 館野 敬 (小・間々田中)

- 1 修学旅行の望ましいあり方
「指導要領に即応する望ましい修学旅行のあり方は如何にあるべきか」関修委主催による研究会が毎年行われています。本年度は1月29日群馬で行われることになっています。また、7月6日・7日の2日間、全修協主催で「これからの修学旅行・自然教室・屋外活動などを考える」というテーマで研究会が開催されました。(大阪)生徒非行の問題や生徒の主体性の尊重など、修学旅行の今後に課せられた大きな課題であります。
- 2 修学旅行委員会のはたらき
関東地区5県(栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉)で構成している関修委に加盟し、新幹線利用の希望調査や合同調整会議、ダイヤの確保と料金割引等について関係機関と折衝しています。また、これに拘る会議を年間6回、関東・東海・近畿の三地区の会議を年間3回開催しています。
- 3 昭和61年度輸送計画について
本年度の新幹線利用の申し込み大変お世話になりました。早速、9月12日関修委で調整して、輸送計画が完成するのは11月の予定です。
- 4 東北方面の修学旅行について
東北新幹線の専用車輛が確保され、千葉・埼玉等が東北方面に志向してきています。8月には、そのための現地研修会が行われ、本県から真岡東中学校長斎藤祐康先生にご参加いただきました。本県としても今後の課題として研究していく必要があります。

☒ 福利厚生部

部長 新井康之 (宇・陽南中)
副部長 伊沢正守 (河・本郷中)
" 松本剛一 (栃・東中)

- 昭和59年度の福利厚生部の活動計画について報告いたします。
第一に、前年度に引き続き、生徒手帳の編集と採用校の増加についてあります。
昨年度は、採用部数が5,000部増加いたしました。これもひとえに、会員各位のご理解の賜ものと感謝にたえません。各地区の内訳は、宇都宮で13校、河内5校、上都賀26校、芳賀15校、南那須5校、佐野3校、安蘇3校、足利5校、計103校。まだまだ未採用校への啓蒙が必要と思われます。
本年度は、さらに内容に検討と改善を加え、より多くの学校に親しまれるものに努力いたします。
第二に、道徳、中学生の安全の副読本の編集であります。特に、道徳副読本「中学生の新しい道」の編集にあたっては、斬新な資料を提供し、迫力のある資料を自作に求め、より生徒の生活に密着し、豊富な充実した内容あふれるものにするよう十分検討を加えていくつもりであります。
第三に、福祉厚生部本来の活動ということで、本年も、会員の退職金、共済年金、医療継続等に関して、県福祉課のご指導をいただきながら、研修会を開催予定ですので、その節は参加についてよろしく願いいたします。



第36回関東甲信越地区
中学校長研究協議会
新潟大会に参加して

地区だより

環境に恵まれ
団結の強い南那須

宇都宮市立泉が丘中学校長 飯野 昭

南那須町立下江川中学校長 高沼 理夫

第36回関東甲信越地区中学校長研究協議会新潟大会は、昭和59年6月7日、8日の両日、新潟会館を中心に、7会場において、全体会、分科会が開催された。「一人ひとりを生かす中学校教育の推進」を全体テーマに、1,120名の参加者を得て活発に研究発表、協議が進められた。

八溝の山と那珂の清流、すばらしい自然環境に恵まれた南那須地区に、八つの中学校がある。

本県からは、島方幸男会長以下63名が参加した。その中で、榆木定治星が丘中学校長が、第4分科会の提案者として、「一人ひとりを生かす進路指導の条件整備」につき、アンケート調査の結果や校長としての努力点等について発表、また、関平明治中学校長が、2日間にわたり議長団にえられ司会、運営を適切に行い、それぞれ重責を立派に果たされたことはご同慶にたえない。

学校数も少なく、それも中・小規模の学校が多いが、「山嶽は小粒でもびりりとからい」のことわざ通り、大橋会長のもとによくまとまって、和やかななかにも厳しい研修が続けられていることは、私たちの誇りである。また「環境は人をつくる」と言われていますが、生徒の行動に、特に目立った問題行動があまりないことも、特筆してよいことだと思っている。

日程の概略を参考までに記すと、

現在研究学校として指定されている学校が二つある。一つは「一人一人の生徒の達成度にもとづく学習指導のあり方」をテーマとする馬頭中学校であり、一つは「偏見をもたず差別をしない生徒の育成」をテーマとする境中である。いずれも来年度発表することになっていますので、ぜひ研究においていただきたいと思います。

◇6月7日(木)

受付、開会式、文部省説明、全体協議、アトラクション、(移動、昼食、休憩)、分科会協議。

数少ない学校の中にも、今年度は二名の新しい校長さんが誕生しましたので、その先生方に抱負や感想などをひと言ずつ述べていただきました。

◇6月8日(金)

受付、全体協議、宣言、(休憩)、講演、閉会式
大会の最後を飾る記念講演は、新潟大学医学部教授、市田文弘先生の「肝心要の話」。専門的なところはほとんど忘れたが、酒とはどうつき合ったらよいか。週休2日の休肝日をすすめられた。自分の酒量をよく心得ておくことが大切で、量を越えると中枢神経の本能を刺戟して思わぬ結果を招くことにもなりかねない。かつて、マスコミを賑わした泉山三六事件などはそのよい例である。酒は有史以来のもの。この酒とうまくつき合って、ストレスを解消し、健康を保持してゆくことを考えていただきたい。との結びの部分が、小生には肝心要の話と心得た次第である。

= 居がいのある学校を =

馬頭東中学校長 大森育男

新任校長として学校経営に一種の戸惑いを感じています。しかし前任の超ベテランの西山校長のつくられた基盤をひきつぎ、和衷協同、師弟同行流汗悟道を合言葉に、全力をつくしたい。

= 美しい環境の中で =

境中学校長 北条光二

八溝花立の山々に囲まれ、西に那珂の流れを見おろす、すばらしい眺望と、緑に包まれた高台に本校は近代的な校舎を誇る。朝夕、登下校する生徒たちはまさに元気はつらつ。この子らの成長と無事故を願い、職員とともに努力したい。

ご参会の各校長先生、ご苦勞さまでした。

昭和59年度 栃木県中学校長会事業計画

I 運営方針

会規約第3条本会の目的に則り、学校教育の振興充実を図るとともに、いっそう義務教育尊重の気風を高揚し、もって教育栃木の建設にまい進する。

1. 会員相互の共通理解を深め、教育の正常な推進を図る。
2. 組織的な研修活動を活発にし、目的達成に努める。
3. 教育関係諸機関、諸団体との連絡を密にし、活動を展開する。

II 重点目標

1. 会員の研修活動の推進
 - (1) 専門職にふさわしい組織的研修活動
 - ア 使命感の確立・深化
 - イ 教育課程実施上の問題点の調査研究
 - ウ 学校経営の諸問題の研究
 - エ 専門部活動の充実
2. 教職員の人材確保対策の推進
 - (1) 教職員の適正配置
 - (2) 教職員の待遇ならびに勤務条件の改善
 - (3) 教職員養成制度の改善
3. 義務教育尊重の気風の高揚
 - (1) 教職員の勤務意欲の高揚
 - (2) 教育予算の増額
 - (3) 現行標準法の改善
 - (4) 県単職員の増員
4. 生徒の教育・福祉条件の充実促進
 - (1) 健全な校外活動推進のための施設設備の拡充
 - (2) 生徒の体育活動充実のための補助金の増額
 - (3) 交通安全施策の改善充実
 - (4) 望ましい家庭教育の普及ならびにPTA

との協力

- (5) 心身障害児教育の充実と施設の設備促進
- (6) 同和教育の推進
- (7) 公立高等学校増設の推進ならびに入試制度の研究と改善
- (8) 私立高校への県費補助の増額

III 事業計画

1. 県中学校長会総会ならびに研修会
昭和59年5月12日(土)
2. 理事・専門部員研修会
 - (1) 理事・協議員研修会 4月26日(木)
 - (2) 理事・専門部研修会 6月14日(木)
 - (3) 理事研修会 10月4日(木)
 - (4) 理事研修会 昭和60年1月25日(金)
 - (5) 理事・協議員研修会
昭和60年2月22日(金)・23日(土)
3. 県中学校長研究大会 昭和59年9月6日(木)
4. 専門部研修会 年間
5. 県教委との研究協議会 11月上旬
6. 全日本中学校長会総会
5月21日(月)・22日(火)
7. 全日中役員研修会(国立教育会館)
7月25日(水)・26日(木)
8. 関東甲信越地区中学校長会総会(新潟市)
6月6日(水)
9. 第36回関東甲信越地区中学校長研究協議会(新潟大会)
6月7日(木)・8日(金)
10. 全日本中学校長会熊本大会
10月25日(木)・26日(金)
11. 義務教育振興研究大会 10月20日(土)
12. 会報ならびに研究集録の発刊 3月